

はにわ世界への いざない



墳丘に円筒埴輪が並んで出土した
熊谷市三ヶ尻遺跡4号墳（中央は石室）

埴輪の起源と変遷

埴輪えんどうはにわの出現とともに、墳丘には円筒埴輪や壺形埴輪が立て並べられました。やがて、死者の霊が宿る依代よりしろとしての家形埴輪が古墳の墳頂に立てられ、その家を守るように盾や鞆などの武器・武具が配置されました。そして、5世紀中ごろには、人物や馬・猪・鹿などの動物像が加わり、マツリは最盛期を迎えました。

埴輪の生い立ち

埴輪は、古墳のまわりに立て並べられた土の造形物で、円筒埴輪と形象埴輪の2種類に大きく分けられます。

円筒埴輪は、弥生時代のお墓に供えられた土器（壺や器台）に、その起源が求められます。大きな前方後円墳が造られはじめた3世紀の中頃から、墳丘や埋葬施設のまわりに大量の円筒埴輪が並べられました。円筒埴輪は死者に対して大量の供物を捧げたことを表すと同時に、垣根のように立て並べ聖域を区画したものと考えられます。

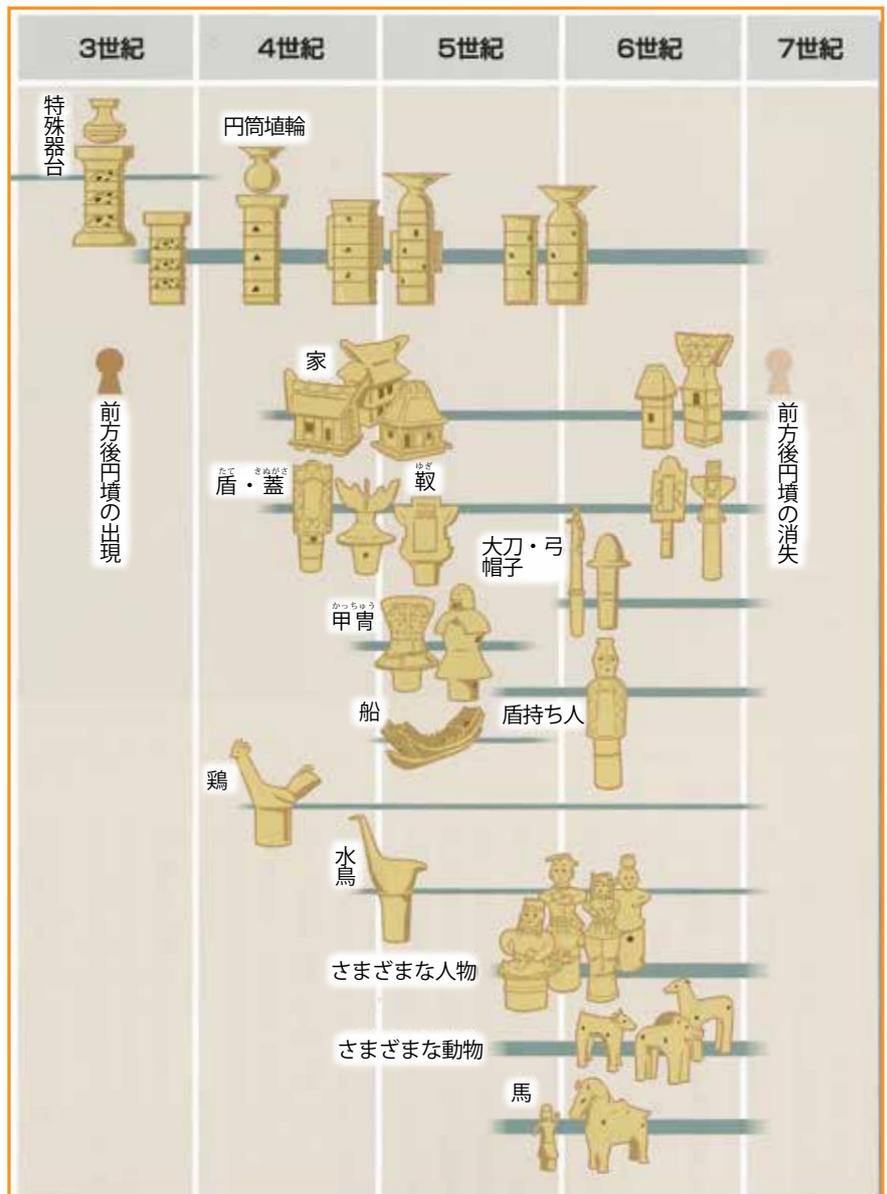
形象埴輪は、器財・家・人物・動物・鳥・魚などさまざまな形を模したもので、その内容はおどろくほど多彩です。中でも、人物埴輪は古墳における葬送の場面をよく表現しています。死者をとむらう厳粛なマツリの様子や、死者をいたみ、再生を願う人々の心情をこれほど見事に表現したものは、人物埴輪において他にはありません。



円筒埴輪

一目でわかる埴輪年表

※若狭 徹「もっと知りたい はにわの世界」より



前方後円墳

3世紀後半から7世紀前半に造られた「前方後円墳」は、日本独特の形であり、全長が486mの大阪府の仁徳陵古墳（写真）は、世界屈指の巨大な墓としても知られています。もちろん、その被葬者は巨大な力を持つ権力者ですが、ヤマト政権の中枢に位置する王から、その影響下で各地域を支配する王まで、その威厳や権力の大きさは様々です。そして、それは古墳の規模や立てられる埴輪などにも表れています。



仁徳陵古墳（大仙古墳）

王の権威

王の墓である古墳は、まず、周囲に立て並べられた円筒埴輪によって聖域が区画され、次に王の権威や力を象徴する埴輪が置かれました。それは、王の魂の館である家形埴輪、その身分や権威を示す蓋、武力を表す大刀や盾、鞆などの器財埴輪でした。

家形埴輪

家形埴輪は、武具埴輪などとともに形象埴輪としては最も古い時期に出現しています。それは亡き王の館の再現であり、死者の魂の依代よりしろとして、古墳の墳頂に立てられたと考えられます。特に大きな前方後円墳では、こうした家形埴輪が何棟かセットになっているものもあり、生前の王の居館を表現したと考えられています。

また、家形埴輪には入母屋造いりもやづくり・切妻造きりづまづくり・寄棟造よせむねづくり・舞台造ぶたいづくりなどさまざまな建築様式が見られ、当時の建築方法を知る上でも貴重な資料と言えます。



家形埴輪
(鴻巣市 新屋敷遺跡)

力の象徴

武器や武具をかたどった埴輪として、大刀・矛・鞆・盾などがあります。武器・武具形埴輪は、力（武力）の象徴であり、聖域に入り込もうとする邪気を追い払うことを目的として立てられたものと考えられています。

鞆ゆぎ：矢を入れて背中に負う道具。上部は、矢が鍔やじりを上に向けて収められている様子を表しています。

鞆とも：弓を射る時に弦が当たらないように腕に着けた革製の道具。

盾たて：革製の防御用の武器（次ページ参照）

蓋きぬがさ：身分の高い人に差しかける日傘



盾 (滑川町 屋田遺跡)



鞆 (深谷市 小前田古墳群)



蓋 (深谷市 宮西遺跡)

大刀 (深谷市 黒田古墳群)



華やかな副葬品

亡き王の権威を示し、その聖域を守るのは埴輪だけではありません。遺体とともに様々な副葬品が納められました。権威の象徴であるきらびやかな装身具。生前、身近においた大刀や弓矢は、死後もその魂を邪気から守ったことでしょう。

メノウの勾玉とガラス小玉
(深谷市 小前田古墳群)



銀象嵌の大刀
(熊谷市 三ヶ尻林遺跡 4号墳)



金銅製の耳飾り
(東松山市 桜山古墳群)

王に仕えた人々

古墳の上には、当時のさまざまな階層や職掌の人々が人物埴輪として立てられています。こうした人物埴輪群像で再現しようとしていたのが、生前の被葬者を取りまく光景なのか、あるいは死後の世界なのかについては明らかではありません。しかし、被葬者の霊を他界へといざなう強い気持ちが込められていることは間違いのないでしょう。

盾持人



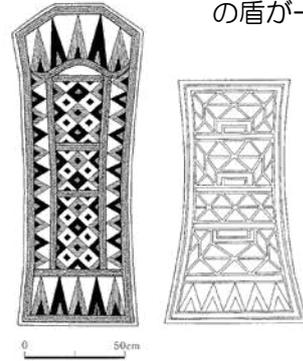
(坂戸市 塚の越遺跡) (児玉郡美里町 十条出土)

手足が表現されず大きな盾の上に顔を表しています。またその顔には、他の埴輪とは異なる独特の表情が造形されています。盾持人は外敵を防ぐかのように古墳の外に向けて配置されることから、被葬者を護る兵士としての役割が考えられます。



古墳時代の盾

盾とは、防御用の武器の一種で、木・革・鉄などで作られます。出土例としては弥生時代からありますが、古墳時代の盾としては、鋸歯状や菱形の模様をつけ、漆を塗った革製の盾が一般的です。



(大阪府 狐塚古墳出土)

王を取りまく人々

人物埴輪には、巫女・貴人・武人・琴弾・農夫・馬子・力士・盾持人など、生前の王に仕えた人々の姿が再現されています。



(坂戸市 塚の越遺跡)

頭に冠帽をかぶり、大刀を下げ、袴と沓をはいています。品格のある姿は、正装の貴人と思われます。



(滑川町 屋田遺跡)
山形の帽子をかぶり、先端が、くの字にはね上がる美豆良が特徴的です。



(東松山市 古凍根岸裏遺跡)
島田髷の女性で、袈裟のような衣服をまとっています。何かを捧げるような両手は、祈りの姿かもしれません。



(東松山市 代正寺遺跡)
顔に鮮やかな赤彩を施し、袈裟のような衣服をまとっています。亡き王に、壺を捧げる巫女の姿でしょうか。



(鴻巣市 新屋敷遺跡)
右：頭の上に壺をのせて運ぶ女子。欠けた両手は壺を支えていたのでしょうか。
中：両手で杯を持つ女子。酒食を捧げる巫女を表したものと思われる。
左：二又の被り物の男子。踊っているように見えますが、腰には鎌の表現もあり、馬飼いかもかもしれません。

祈りと狩り

動物埴輪には、鳥・馬・猪など数多くの動物が表現されていて、しばしば私たちの心を和ませてくれます。しかし、埴輪として表現される動物たちは、必ずしも王の心を癒すための愛玩用ではなく、儀式や信仰、あるいは狩りの対象として登場したものと考えられています。

鳥の埴輪

動物のなかでは、^{にわとり}鶏が最もはやくから埴輪として作られました。鶏は朝を告げる鳥であり、死者の再生を願う気持ちが込められた鳥として、重要な役割を担っていたと考えられます。

鶏のほかには白鳥や鴨などの水鳥をモデルにした埴輪も知られています。特に、白鳥は空高く飛び去る姿から靈魂を運ぶ鳥としての役割を担っていたようで、鶏とはまた違った願いが託されたのでしょう。



鶏形埴輪 (東松山市 しもみちぞえ 下道添遺跡)



水鳥形埴輪 (加須市 小沼耕地遺跡)

馬の埴輪

馬の埴輪は5世紀前半に登場します。埴輪に表現された馬は、各種の馬具で飾り立てた飾り馬が最も多く、馬をひく人物(馬子)をとまっています。儀式に参列した様子を表しているのでしょう。



横座りの用の鞍を付けた馬 (美里町 広木大町古墳群)



馬子と馬形埴輪 (熊谷市 きたじま 北島遺跡)

狩りの光景

猪や鹿などの動物埴輪は、犬と一緒に出土することが多いことから、猟犬に追われる猪や鹿など、狩りの場面を表現していると考えられます。

しかし、狩りの場面を埴輪で再現する理由については明らかではありません。王の葬儀に捧げる動物を手に入れる場面を表したものか、被葬者の勇壮さを示す一場面(狩猟はいつの世も男の晴れ舞台です)、あるいは靈の再生にかかわる儀礼の表現などの解釈があります。



猪形埴輪 (上) (鴻巣市 新屋敷遺跡)
鹿形埴輪 (右上) (鴻巣市 生野山古墳群)
犬形埴輪 (右) (鴻巣市 新屋敷遺跡)



さまざまな表情

埴輪の顔が私たちをひきつけるのは、切りとった穴による目の表現にあると言われています。つまり、埴輪の目こそが、中空の土人形に生命の息吹やさまざまな表情をあたえているのです。

6世紀になると、小規模な古墳にまで人物や動物埴輪が立てられるようになりました。それらを製作した大規模な埴輪づくりのムラ（埴輪窯跡）も見つかっています。埴輪を製作した工房ごとの顔つきや作り方の違いに注目すれば、作った工人まで特定できるかもしれません。

桜山窯跡群

東松山市

東武東上線高坂駅たかさかから南西約1.5kmにある埴輪づくりのムラで、南斜面を利用した

窯跡が17基発見されました。

窯の内部からかき出した灰や土の溜まった灰原から出土した埴輪は、基本的に不良品ですが、同じ工房で作られた埴輪には、表情や作り方にも共通するものがあります。



(振り分け髪の男子)



(武人)



(いれずみのある女子)

小前田古墳群

深谷市

深谷市から寄居町にの、荒川左岸に立地する、円墳を主体とした古墳群です。

かつては「小前田百塚」と呼ばれたほど多くの古墳がありました。



(壺を頭にのせた女子)



(振り分け髪の男子)



(武人)

北島遺跡

熊谷市

熊谷スポーツ文化公園の国体会場建設用地の下から8基の古墳が見つかりました。

この2体の埴輪は、同じ1号墳の周堀から出土したもので、顔の表情がうり二つであることから、同じ工人の作と思われる。



(冠をかぶる男子)



(両手を前に差し出す女子)

男と女の埴輪

女子の埴輪の頭には、板状の頭髮の表現（写真）があります。これは、長い髪を頭の上で一度束ね、前後に折り返した中央を紐でしばったものと思われ、島田しまだ髷まげに似ていることから古墳島田などと言



われます。また、男子の顔の両側にあるのは、耳の脇で束ねた髪で「美豆良」といいます。

展示資料

平成24年ほるとま展2012「はにわ世界へのいざない」では、22遺跡70点にも及ぶ埴輪を展示しました。いずれも県内の遺跡から出土した資料で、いつもは熊谷市にある県立文化財収蔵施設に保管されています。ここでは、その中から主な埴輪を紹介します。



・・・「はにわ世界へのいざない」展示遺跡

No.	市町村	遺跡名	主な埴輪	No.	市町村	遺跡名	主な埴輪
1	神川町	十二ヶ谷戸古墳群	鶏形埴輪	11	鴻巣市	新屋敷遺跡	二又の被り物の男子
2	本庄市	生野山古墳群	鹿形埴輪	12	鴻巣市	馬室埴輪窯跡群	盾形埴輪
3	美里町	広木大町古墳群	馬形埴輪	13	東松山市	下道添遺跡	鶏形埴輪
4	寄居町	箱石遺跡	靱形埴輪	14	東松山市	桜山埴輪窯跡群	人物（馬飼）
5	深谷市	小前田古墳群	大髷の女子	15	東松山市	反町遺跡	烏帽子をかぶった男子
6	深谷市	黒田古墳群	大刀形埴輪	16	東松山市	代正寺遺跡	小壺を捧げ持つ女子
7	深谷市	千光寺古墳群	振り分け髪の男子	17	東松山市	古凍根岸裏遺跡	両手をあげる女子
8	深谷市	宮西遺跡	蓋形埴輪	18	滑川町	屋田遺跡	農夫
9	熊谷市	北島遺跡	馬形埴輪	19	川島町	富田後遺跡	馬形埴輪
10	加須市	小沼耕地遺跡	水鳥形埴輪	20	坂戸市	塚の越遺跡	盾持人

*会場によって展示する資料は異なります。



展示 2012

はにわ世界へのいざない

熊谷 八木橋百貨店	平成24年 8月 8日(水) ~ 8月13日(月)
秩父 矢尾百貨店	平成24年 8月23日(木) ~ 8月27日(月)
大宮 DOM	平成24年11月 2日(金) ~ 11月 6日(火)
さきたま史跡の博物館	平成25年 2月 9日(土) ~ 3月17日(日)

主催 / 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催 / 埼玉県教育委員会・埼玉県立さきたま史跡の博物館

後援 / 熊谷市教育委員会・秩父市教育委員会・さいたま市教育委員会

協賛 / 株式会社八木橋・株式会社矢尾百貨店・DOMショッピングセンター

平成24年8月7日発行

編集・発行 / 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493-39-3955

<http://www.saimaibun.or.jp>



上の写真は東松山市桜山窯跡群です。